

参考資料1

教育バウチャー(児童生徒数基準の予算配分方式)の導入について

平成18年5月18日

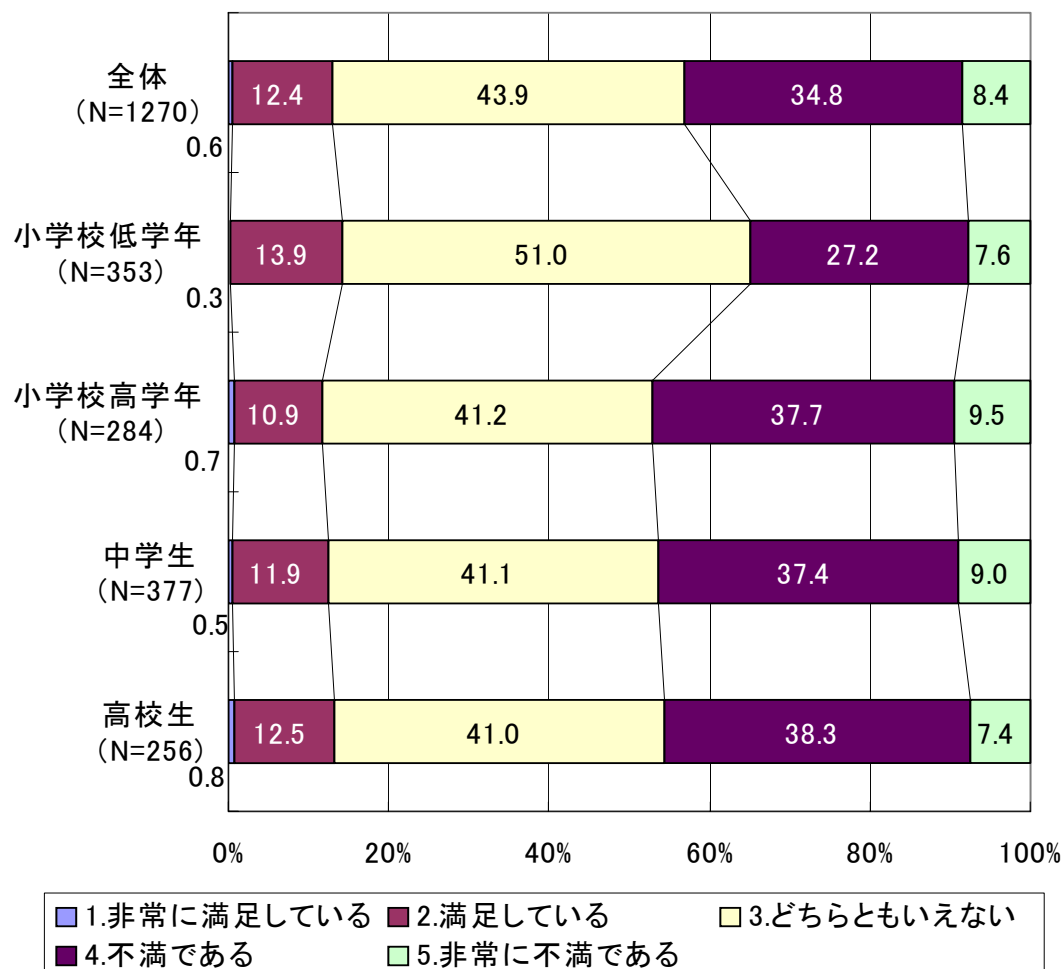
内閣府 規制改革・民間開放推進会議

現在の学校教育に対する満足度

内閣府調査「学校制度に関する保護者アンケート」より
(平成17年10月6日公表)

- 保護者に現在の学校教育に対して満足しているかどうかを尋ねたところ、満足(「非常に満足している」と「満足している」の合計)が13.0%、「どちらともいえない」が43.9%、不満(「不満である」と「非常に不満である」の合計)が43.2%であり、不満を感じている保護者が4割強に達している。
- 子どもの学年別にみると、小学校低学年は「どちらともいえない」が多く、不満である人の割合がやや低くなっている。

【Q.1】現在の学校教育に対して満足をしていますか。(ひとつだけ)



注)

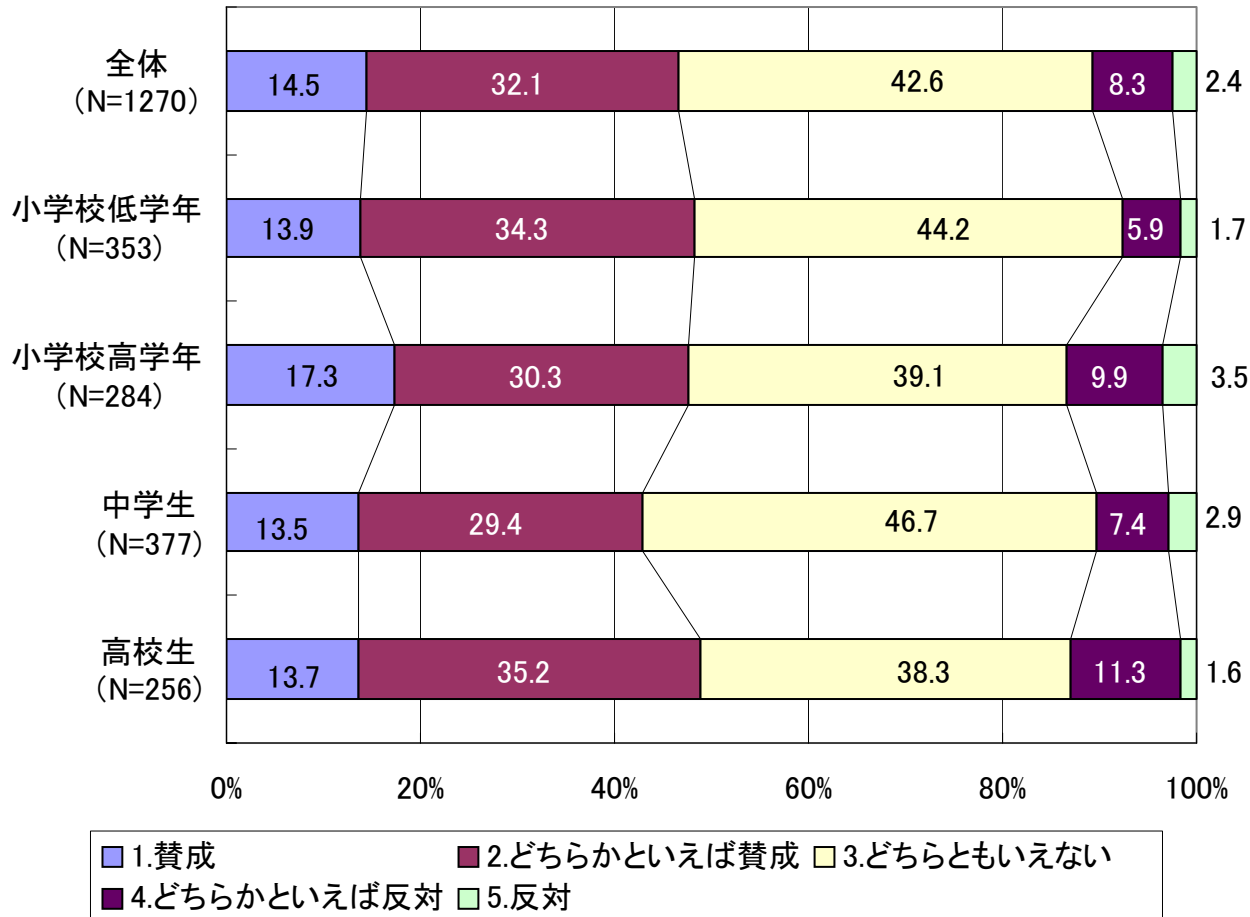
- ・以下の質問は、基本的には小学生～高校生の子どものいる保護者を対象としている。
- ・子どもが複数いる場合は、年齢が最も小さい子どもの教育を想定して質問に答えるように依頼しており、文中で子どもの学年を示している場合は、その最も小さい子どもの学年別に分けて回答を集計している。なお、年齢が最も小さい子どもが高校生の保護者の場合は、その子どもが中学生のときのことを想定して回答するように依頼している。

児童・生徒数に基づく教育予算制度の是非

内閣府調査「学校制度に関する保護者アンケート」より
(平成17年10月6日公表)

■ 児童・生徒数に基づく教育予算の考え方について尋ねたところ、賛成(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が46.6%をしめている。「どちらともいえない」という人が42.6%をしめ、反対の人はあわせて10.7%にとどまっている。

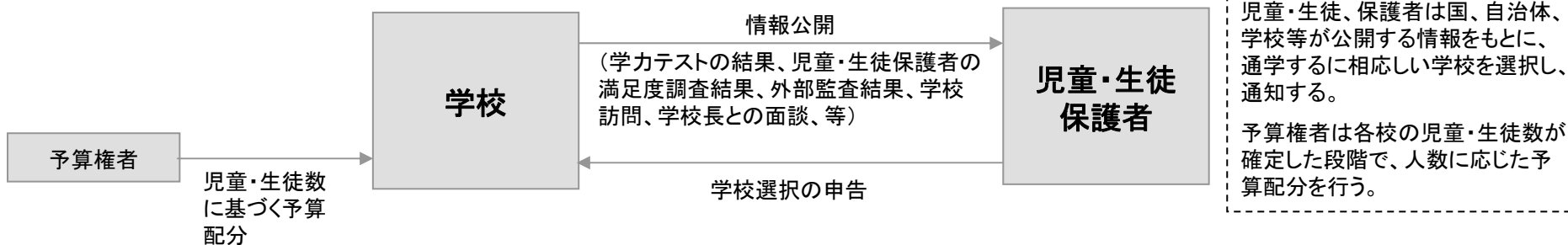
【Q.25】現在の教育予算は教員数、施設等を基準として、最終的に教育機関に配布されています。これを公立学校について学校選択制を導入したうえで、児童・生徒1人当たりの基準額を決め、児童・生徒の人数に基づいて教育予算を配布する制度に改めようとする意見があります。公立学校も私立学校も同じ基準で予算を配布する制度です。この考え方についてどのように思いますか。(ひとつだけ)



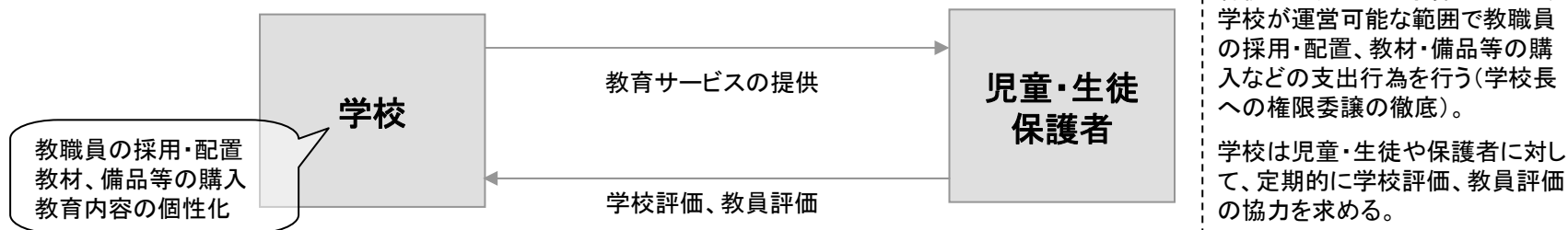
教育バウチャーに基づく学校選択制度の仕組み(欧州の例を参考に)

参考資料1-3

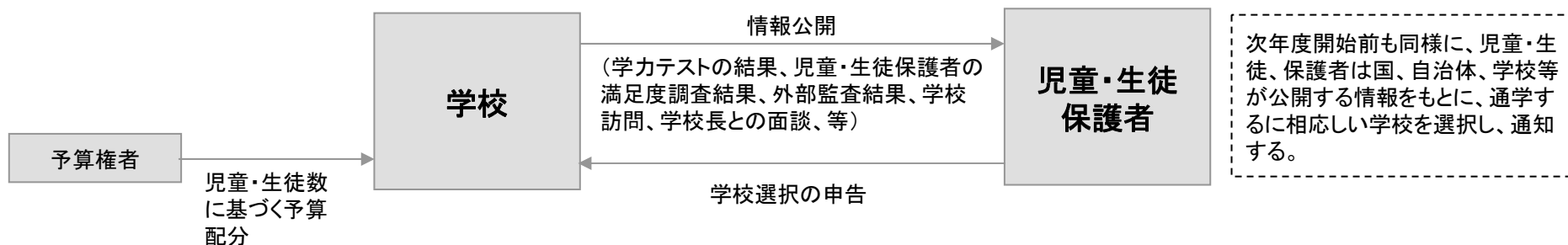
【年度開始前】



【期中】



【次年度開始前】



○「骨太方針2005」(平成17年6月21日閣議決定)における教育バウチャーの記述(抜粋)

・我が国の社会の実態や関連の教育制度等を踏まえ、海外事例の実態等を検証しつつ、教育における利用券制度について、その有効性及び問題点の分析など、様々な観点から検討し、重点強化期間内に結論を得る。

○経済財政諮問会議(平成18年4月19日開催)有識者議員提出資料 「規制改革のさらなる推進に向けて」(抜粋)

・教育バウチャーの導入等に関する検討

教育バウチャーは、「官から民へ」の改革の一環であり、教育分野に競争原理を導入するとともに、教育を受ける側の機会均等と選択肢の拡大を実現し、いわば教育分野における利用者主権への抜本的な転換を図るもの。低所得者への配慮の観点も踏まえ、平成18年度中に、導入に向けた工程について結論を得るよう検討を深める。

また、教育委員会制度の見直し、学校選択制の全国普及を本格化させる施策について、本年6月頃までに改革の方向を明示する。

(参考)「規制改革・民間開放推進3か年計画」(平成18年3月31日閣議決定)(抜粋)

「骨太方針2005」(平成17年6月21日閣議決定)においては「我が国の社会の実態や関連の教育制度等を踏まえ、海外事例の実態等を検証しつつ、教育における利用券制度について、その有効性及び問題点の分析など、様々な観点から検討し、重点強化期間内に結論を得る」とされているところであり、教育バウチャー制度について、我が国の社会の実態や関連の教育制度等を踏まえ、海外事例の実態把握、その意義・問題点の分析等様々な観点から、今後更に積極的な研究・検討を行う。【平成18年度検討・結論】

平成18年第9回経済財政諮問会議 議事要旨より抜粋

(小泉議長) 今の制度で、もしこの教育利用券をやったら、具体的にどう替わる？

(安部議員) 人気のない小学校、中学校には生徒がこない。

(中略)

(二階議員) だから、人気のない学校は廃校になってしまう。

(小泉議長) それで反対があるわけか。

(中略)

(小泉議長) 反対論の主な理由は何か。

(宮内議員) 学校間の競争が起きることだろう。

(二階議員) 日教組は大反対している。

(小泉議長) ますます格差が起きるという批判か。

(牛尾議員) 競争になって困るところは反対する。競争を歓迎するところはみんな賛成する。(略)

(宮内議員) 父兄は圧倒的にバウチャーのような方法がいいということで、46.6対10.7である。父兄は圧倒的に賛成の方向。